

2025年1月1日

## 2025年 安全衛生管理 基本方針

コープ商事物流株式会社  
取締役社長 星山峰幸

昨年度は「災害・事故ゼロの職場」と「心身健康で明るい職場」を目標として活動しました。

休業無災害継続日数は運輸部では91日、業務部では5,101日となりました。労働災害が1件(労基署確認中)、交通事故や構内での車輛接触事故が8件、その他作業事故や事故につながりかねないミスやヒヤリハットも発生しております。その都度、設備的な対応や再教育と事故発生原因の周知徹底を図っていますが、事故の発生をゼロにする事ができませんでした。

また、ストレスチェックの組織分析の結果は、昨年よりも健康リスクが悪化し、健康診断の結果についても、8割以上の方がまだ再検査や要治療となっておりなかなか改善が図れていません。

交通事故、構内での車輛の接触事故が続けて発生していることから、実施中の対策やチェック体制を継続しながら、安全教育や設備改善も含めた“事故を発生させない体制づくり”並びに心身の健康の改善を図るための健康管理体制を充実させていきます。

本年の片倉コープアグリ(株)の安全衛生管理指針は、下記の基本方針に基づき、最重点施策に取り組んでいくこととしています。

### 記

- I. 基本方針
  - 『日々ゼロ災の達成』
  - 『重点項目に対する方針策定と計画的活動』
  - 『性別、年齢層、気候変動を考慮した労働安全衛生環境整備』
- II. 最重点施策
  - 『労働災害に対する意識改善に向けた仕組み作りと運用』
  - 『安全衛生部会・環境部会の機能強化』

#### (1) 労働災害に対する意識改善に向けた仕組み作りと運用

過去発生した労働災害に対し重点項目を定め、支店・事業所・工場が連携し再発防止を考慮した方針と年間の計画を策定させ、年間の長期的な目標ではなく日々

の業務で労災を抑止するという意識のもと運用状況を管理する。特に本年度発生した労働災害は過去発生した事故と類似性があり、周知されている情報が職場環境に反映されていない状況となっているため、改めて取り組むべき重要項目を各々で計画し、意識の構築を行う。実行するにあたっては外部機関介入による基礎構築が必要であると判断しており、ISO45001を導入することで労働安全衛生に対するPDCA サイクルを機能させる。

また工場の高齢化が進み、転倒災害が懸念される中、労働環境の整備が急務となっている。コープ朝日興産では除雪の際に舗装凹凸にスコップがとられたことによる骨折、フォークリフト降車時に路面凹凸に足をとられたことによる骨折など舗装面の未整備による災害が発生しており、最優先項目として労働環境整備指導を行っていく。近年の気温上昇化に対しても各所対策が遅れており、熱中症対策に関しても強化対策を促していく。「年間ゼロ災の達成」という達成困難な目標を「日々」に改め、より安全衛生への意識を身近なものとし新たなスローガン「日々ゼロ災の達成」をもって活動を進める。

## (2) 安全衛生部会・環境部会の機能強化

本年度労働基準監督署の立ち入りのあった北海道支店において、化学物質リスクアセスメント運用に関する指導があった。各所化学物質の特定やリスクアセスメントを実施しているが、現状では不完全であり対応が急務となっている。労働者の健康面や作業環境の改善を考慮すれば最優先事項となり、より意識を高めるため取り組み強化を進めていく。過重労働に関しては依然平準化が進んでおらず、対象部門における分析や対策が実施されていない状況となっている。メンタルヘルスの課題解消とあわせ、職場メンタルヘルスの課題解消とあわせ、職場環境の改善や業務負担の平準化を促さなければならない。その手段として安全衛生部会による実態調査、改善計画作成を確実に運用させ、厚労省認定の「安全衛生優良企業公表制度」※1の評価のもと、対象となる支店、事業所に対し改善指導を行っていく。いずれも管理者責任のもと安全衛生部会の機能を充実させ、支店・事業所単位での取り組み強化を進めていくことが目的となる。

また環境へ向けた企業取組として、配慮すべき生産活動からの環境影響要因を各所自ら特定し、GHG削減を含めた取り組みを実行しなければならない。全社一体となった活動として意識に温度差が生じることのないよう、環境部会監視のもとエネルギー消費量やCO<sub>2</sub>排出量を管理させ、工場の問題点を共有し生産効率化に紐づくような活動を指示、強化していく。

### 注釈

※1「安全衛生優良企業公表制度」とは

労働安全衛生に積極的に取り組んでいる企業を厚生労働省が認定し、企業名を公表する制度。認定された企業は、3年間優良企業であることを社内外にアピールできる。

これらの状況を鑑み、2025年は「日々災害・事故ゼロの職場」と「心身健康で明るい職場」を目標として、以下の項目に取り組むこととします。

1. 親会社と一体となった各種活動・訓練の実施
2. 想定訓練による安全意識向上と非常時の対応力向上
3. リスクアセスメント活動の活性化
4. 5S活動の継続による職場環境の改善
5. ヒヤリハット抽出の推進
6. 交通事故防止の取組強化
7. 健康診断とストレスチェック結果に基づく心身の健康管理フォロー  
の実施

従業員一人ひとりが“絶対に災害・事故を起こさない”という強い意志を持って、法令順守と安全規則順守を徹底すると共に、積極的に安全衛生活動に参加し、お互いにコミュニケーションを取り合い、目標達成に向けてがんばりましょう。

以上